

先輩の声
高橋 裕也 先生



何故麻酔科を 選んだのか

- 自分は新卒の時、家庭の都合で消化器内科研修医として就職しました。
- 研修医修了後に医化学(旧:生化学)講座で研究員となり、基礎研究を行って学位を取得しました。
- その後、大学との関係もあり秋田県で内科医として仕事をしていたが、様々な事情から、転科を含めた将来の方向性を考えねばなりませんでした。
- これまで未経験だった分野をやってみたいと考えました。
- 当時悩んでいた(患者の)痛みのコントロールや、手術中の体液管理の点に興味を持ち、部活動(吹奏楽部)の先輩が神経内科から麻酔科に転科したこともあり、麻酔科研修をしようと思いました。

何故麻酔科を 選んだのか

- 麻酔科研修は2013年から2016年の間、磐城共立病院(現いわき市共立医療センター)で行いました。この時、当時の診療部長・副部長や同僚の先生方・各大学から応援に来られていた先生方には厳しくも温かいご指導を受け、麻酔科標榜医を取得することができました。
- 常勤医の交代に伴い、「大学に戻って専門医を取れ」と言われたこともあり、麻酔科学会や勉強会でご一緒させていただいた当大学の相澤先生に相談し、鈴木健二教授、熊谷基医局長(当時)と面談を行いました。
- そういった経緯で、2016年より当大学で助教として仕事をしています。麻酔科の中でも自分に向いている分野とそうでない分野があると思います。自分の立ち位置を少し考え、自分のやりたいことを決めていくのも麻酔科の醍醐味だと思います。

麻酔科研修

- 当初、当大学と胆沢病院の勤務で先輩医師からの指導を受けてきました。いわき時代とは異なるやり方も参考になりました。
- 恵まれた環境のおかげで、専門医機構認定麻酔科専門医、ペインクリニック専門医を取得することができましたが、最近の各種認定試験の難しさを身を以て感じています。そんな時でも、抜本的に本質はどこにあるのかを見極めて対応することで、対応が可能になると考えます。
- とは言うものの、多忙な麻酔科業務やペインクリニック業務では、教わること、自学自習することは共に膨大です。大学病院は豊富な症例のバリエーションを背景に、経験を多く積む事が出来る事が長所と思います。
- また、当医局は当番制を敷くことでコールフリーな平日・週末も確保されています。ここは、文化的な生活をする上でも大事な事になります。
- 私以外にも他分野から麻酔科に移籍してきた先生が何人かおられますし、逆に自分の目指す分野に進む前に麻酔科で研修をする先生もいます。

当医局の特色

- 麻酔現場からさまざまな機材を使ってデータを取り、多くの学術研究を行っております。
- 学術研究の拡大を意図して、海外留学に行っている医師もいます。
- 当科の特徴のある麻酔業務として、心臓麻酔を専攻する医師、ペインクリニック・漢方を専攻する医師が多く在籍しています。
- 歯科麻酔科とも共同し、知識の共有、業務効率の改善を図っています。熟練歯科麻酔医がペインクリニックや手術麻酔で活躍しています。
- 提携医療機関からの応援麻酔医や他科の麻酔研修医もいます。
- 麻酔科を専攻したいと考える若手医師の皆さんへ。麻酔科は大変な仕事だと思いますが、緊急事態に対応できる経験値が段違いに大きくなり、医師としての幅を広げることが出来ます。

最後に

- 当医局は東北新幹線・JR東北線沿線に位置し、日本における麻酔科独立時から開設されている歴史の深い教室です。他の医局と異なる美点として、幅広い世代、多くの部門の先生方により運営され、世代を超えた協力体制と多様性が挙げられます。
- 麻酔医は業務上「出来る事と出来ないことを直ちに認知・判断すること」を迫られる場面が多いですが、そんな時でも先輩医師や同僚に救援を求めれば協力を得られます。決して一匹狼な仕事ではありません。
- 麻酔科に興味を持った方、専門医になるための研修をしたい方、心臓血管麻酔やペインクリニックの専門研修をしたい方、ぜひ一度見学に来てください。お待ちしております。